

先生方、こんにちは。校長の大倉です。中学校の吉松校長先生と同様に今年で二年目となります。よろしくお願いいたします。

さて、与論中学校と本校は平成十二年四月に連携型中高一貫校としての取り組みを始めて以来、今年度で二十六年目を迎えることとなります。これまでの間に引き継がれてきたよい部分は残しつつ、変えるべき部分は失敗を恐れず改革して、全ては「生徒の成長」のために本年度はここにいる中高のスタッフで協力をさらに一層深めながら、取り組みを進めていただきたいと思います。

今年度は与論中学校から四十四名と、島外からふるさと留学の孫留学制度を利用した一名の合計四十五名の生徒が入学し、総勢百三十一名の生徒数でスタートしております。生徒数減少については県内どの地方校についても喫緊の課題ですが、与論中学校の先生方には多くの生徒たちを本校に繋いでいただき大変感謝しております。今後とも一人でも多くの生徒を本校に繋いでいただき、本校から「島だち」することによって生徒たちが地域にしっかりと根を下ろし、将来は地元に貢献できる人材になることを期待しています。

中学校までに生徒たちが取り組んできた「ゆんぬ学」は、高校の総合的な探究の時間「ゆんぬ」で大きな力を発揮することになります。中学時代に扱ったテーマを高校で利用するしないに関わらず、与論独自の探究テーマはそのオリジナリティーという点で、上級学校へ進学する際の経験値として圧倒的なアピールポイントになります。実際、今年度の卒業生もこれを武器に総合型入試や推薦入試で合格を手にした生徒も何名もいます。昨年度の海洋教育フェアで中学生が発表した、「日本の女子サッカーを盛り上げたい」とか「防災マップをもっと実用的にしたい」というような視点は、今後有意義な探究に繋がる可能性を十二分に感じますし、高校で発展させてくれることを期待しています。

探究以外の教科の基礎学力については、各教科で丁寧な分析をお願いしたいと思います。昨日、県教委のHPにも学力検査の結果概要が公表されており、本校の職員では情報を共有しておりますので、教科ごとの分析で活用してもらいたいと思います。全体的な平均点はここで共有したいと思いますので、資料をお出しく下さい。

ご覧の通り、なかなか厳しい結果となっております。今年二月の定着度テストからは、公式の県立高校入試と同様に「得点開示」を行っております。生徒個々に対して他校と同様の手続きを経て、定着度テストの点数を開示しました。数名の生徒さんに今年は得点開示をしましたが、中学校の先生方におかれましても、今後の教科指導の参考データとして積極的に活用していただければと思います。

また今年度も、乗り入れ授業を担当している先生方だけでなく、全先生方が自由にアポなしで学校間を行き来していただき、日常の教科指導・生徒指導に活かしてもらいたいと思います。中高の職員が力を合わせて日常から与論島の生徒たちの成長を見守っていければと考えております。

このあと、教科部会・領域部会等が続きます。短い時間ではありますが、活発な意見交換をよろしく願います。